

中頭指導行政の基本方針  
重点目標

最多・最大の最高を追求する中頭教育の創造  
～地域に根ざし、共に子供の育ちを保障する魅力ある学校づくり～

育成をめざす資質・能力  
○実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得  
○未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成  
○学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

重点事項「わったーわらび」の学力保障と成長保障

- 国・県の施策
- ☆障害者基本法・障害者差別解消法
  - ☆発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン(国H29年3月)
  - ☆中央教育審議会初等中等教育分科会報告(H24年7月)
  - ☆沖縄県特別支援教育推進計画(R4年9月)
  - ☆令和5年度版学校教育における指導の努力点

長期目標: 持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成  
総括目標: 幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む。

- 基本方針
- 1 全校体制による教育的支援
  - 2 実態把握(アセスメント)による一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
  - 3 関係機関との連携強化

- 取組事項
- 1 特別支援教育体制
  - 2 教育的ニーズに応じた指導・支援
  - 3 家庭・地域・関係機関との連携
  - 4 RPDCA×3サイクルの推進(生徒指導・教育相談)
  - 5 教育環境整備

- 令和4年度の状況
- 【中頭地区特別支援学級数】  
小 420学級(R3～5学級増)  
中 156学級(R3～15学級増)
- 【巡回アドバイザー要請件数】  
私立幼稚園・小学校(2件)  
公立幼稚園・こども園(2件)  
公立小学校(7件)  
公立中学校(2件)  
県立中学校・高等学校(4件)  
※令和5年1月現在

- 家庭の取組
- 規則正しい生活リズムの確立
  - スマホ等の利用ルールづくり
  - 学習習慣の確立
  - ファミリー読書の推進

- 地域の取組
- 地域の人々との活動を共にする交流及び共同学習の推進
  - 児童デイサービス
  - 保育所等訪問支援事業
  - トライアングルプロジェクトの推進

学校の取組  
児童生徒理解と教育的ニーズに応じた指導の充実!!

- 教師の「3つの視座」に基づく教育の推進
- 第1視座 組織的な聞くことのしつけ
  - 第2視座 主体的な学びづくり 子供のエネルギーを活用した活動づくり
  - 第3視座 子供の自分の信頼を高める「勇気づけ」

1 特別支援学級の教育課程の充実  
①児童生徒の障害の状態や発達の段階及び特性を踏まえた特別の教育課程の編成  
②小中学習指導要領を踏まえた教育課程の編成

2 交流及び共同学習の充実  
①特別支援学級や特別支援学校の児童生徒と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の推進  
②地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の推進

3 就学支援体制の充実  
①校内委員会の機能化  
②市町村教育支援委員会と連携した適切な対応  
③体験入学を恒常的に実施できる体制づくり

4 特別支援学級の弾力的運用  
①特別支援学級の場や担当者の専門性の活用  
②教職員への理解啓発と専門性の向上

- 学校の活性化に効果の期待できる取組
- 1 校長講話(めざす姿の共有)
  - 2 指導案作成と授業実践
  - 3 授業を補完する取組
  - 4 五者会等へ学校事務職員が参加
  - 5 学校評価の分析・活用
  - 6 校長による授業参観と助言
  - 7 評価システム面談にてめざす姿等の確認
  - 8 校内教育支援委員会の充実

学校・行政等による特別支援教育体制の構築

	視点1 自己肯定感の高まり	視点2 学び・育ちの実感	視点3 組織的な関わり	行政等による特別支援教育への支援体制
方策1 日常化する【質的授業改善】	○児童生徒の生活や学習上の困難さへの気づき(実態把握) ○担任による個別対応(継続指導) ○生徒指導4つのポイントを生かした授業			○市町村教育委員会 ・教育相談室(適応指導教室) ・特別支援教育支援員 ○中頭教育事務所 ・地区特別支援教育運営連絡協議会 ・巡回アドバイザー・専門家チーム ・学校運営アドバイザー ○県立学校教育課特別支援教育室 ○県立総合教育センター特別支援教育班 ○医療・福祉・保健・労働 ・沖縄県発達障害者支援センター「がじゅま〜る」 ・中部福祉事務所
方策2 そろえる【組織的共通実践】	○個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用・見直し・引き継ぎ ○見取る視点・観点を共有した共通実践(個に応じた対応) ○校内研修等を通じた職員間の共通理解・共通実践			
方策3 支える【発達の支援】	○特別支援学級の弾力的な運用 ○特別支援教育支援員の効果的な活用 ○確かな児童生徒理解 ○合理的配慮(教育的ニーズに応じた指導) ○支持的な風土をつくる学校・学級経営			
方策4 見通す【学校運営マネジメント】	○校内委員会を中心とした校内支援体制 ○特別支援教育コーディネーター → 全職員協働体制 → 校内研修			
方策5 つなぐ【学校連携・地域連携】	○市町村教育委員会(教育支援委員会、巡回相談員、SSW等) ○特別支援学校のセンター的役割 ○トライアングルプロジェクト(教育・福祉・家庭の一層の連携)の推進			

学び合う教職員の資質・能力向上

「チーム学校」づくりの推進

カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進  
— 社会に開かれた教育課程の実現 —

中頭地区学力向上推進委員会【共通確認・共通実践事項】

しっかり教える  
モデリング(教えて)「価値」形  
コーチング(考え、指向させ)「強化」「修正」  
フィードバック(価値付ける)「勇気づける」

じっくり考え、させてみる  
主体的な学びづくり 子供が学び合う授業づくり  
「主体的・対話的で深い学び」  
学習規律づくり よりよい学校・学級をめざす組織的な活動  
「支持的風土の醸成」

たっぷり価値づける  
子供自身が自分への信頼を高める「勇気づけ」  
「ほめ言葉」  
「承認」  
自己肯定感の高まり

① 統一 発達段階に応じて学級経営や教科経営の内容・方法を統一し、校内で組織的に進める

② 徹底 評価と指導・支援を繰り返し定着するまであきらめない

③ 連動 学校におけるすべての指導を連動させ、一貫した方針による授業を実践する

④ 評価 取り組みの進捗状況を定期的に点検・評価し、課題については新たな改善策を講じる